校長会報

第151号

宇都宮市立中央小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
堀場幸伸

印刷所
(有)正栄社印刷所

一致団結校長会

栃木県小学校長会長　堀場　幸伸

新型コロナウイルス感染症が五類になり、学校には活気や明るさが戻ってきました。しかし、学校を取り巻く環境は劇的に変化し、先行き不透明で予測困難な時代を迎えています。このような難しい時代ではありますが、私たち校長は、子どもたちのために学校経営の充実に努めなければなりません。そのためには、三つの大きな課題があります。

一点目は、「子どもの安全・安心を守る」という課題です。学校は、地震などの自然災害や突発的な事件・事故から子どもたちの安全（命）を守らなければなりません。そのためには、常に最悪の事態を想定し準備や対応を考えることが大切です。また、子どもの安心を守ることも大切です。不登校の増加が深刻な問題となっていますが、子どもの居場所づくりや個に応じた支援の充実に取り組むことで、学校を安心できる場所にしていきたいと考えています。

二点目は、「子どもたちの未来を守る」という課題です。デビットソン教授が「小学校に入学した子どもたちの六五％は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」という説を発表し大きな話題となりましたが、この予言が現実のものになろうとしています。飛躍的な技術改革の中で進化した人工知能（ＡＩ）は私たちの生活に深く浸透し、Society5.0の社会が着実に近づいてきています。現在の小学校六年生が大学を卒業する十年後、日本はどのような社会になっているのでしょうか。また、そのとき子どもたちに必要な資質・能力とはどのような力なのでしょうか。国では次期学習指導要領改訂に向けた作業も始まりましたが、これらにも注目しながら、子どもたちに将来をたくましく「生きる力」を育めるよう教育活動の充実に取り組んでいきたいと考えています。

三点目は、「教職員を守る」という課題です。学校は、国や県・市町教育委員会の指導の下、働き方改革の推進に取り組み、教職員の時間外勤務の状況は一定程度の改善がみられてきました。しかし、依然として長時間勤務や子どもと向き合う時間の不足などの実態が明らかとなっています。さらに、全国的な教員不足という憂慮すべき状況も続いています。

更なる働き方改革を推進することで「働きやすい」職場づくりに取り組むとともに、教員が本来の職務に専念できる環境を整備することで「働きがい」を実感しながら教育活動にあたれるよう改善していきたいと考えています。

課題は山積しておりますが、校長同士一致団結して、子どもたちのためにがんばっていきたいと考えております。

第七十七回 栃木県小学校長会総会

令和六年度栃木県小学校長会が五月二十一日に栃木県教育会館において、栃木県教育委員会教育長の阿久澤真理様、前会長の生田敦様をお招きして開催されました。

堀場幸伸会長は挨拶の中で、私たち校長が学校経営の充実に努めるために、「子どもの安全・安心を守る」、「子どもたちの未来を守る」、「教職員を守る」、という三つの課題を挙げ、子どもたちの笑顔のために、校長同士が一致団結して栃木の教育の充実に向けがんばっていきたい、と述べました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。

総会後の研修会では、県退職公務員連盟事務局長（元県小学校教育研究会会長）野中和明様から、「心は動いただろうか―校長は教育者―」と題して講演があり、ご自身の人生、校長時代に大切にしたこと、ご自身を動かした言葉たち、学校教育の成果について、ご講話をいただきました。最後に、我々校長には、「体を動かす」、「人とつながる」、「自分の役割を感じる」、その三つの大切さを挙げ、講演を締めくくりました。

令和六年度 活動目標

本校長会は、学校がさらに発展を続けることを目指し、以下の八点を具体目標として、県並びに市町教育委員会や関係機関との関係性を大切にするとともに、校長間のネットワークの一層の活性化を図りながら研究・実践を積み重ね、基本目標の具現化に努める。

《基本目標》

自ら未来を創造し　ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す　学校経営の推進

《具体目標》

一　学校経営の充実
二　創意ある教育課程の実施
三　社会の変化に対応した教育の推進
四　豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
五　教職員の指導力の向上と人材育成
六　危機管理意識や能力の高揚
七　学校の働き方改革の推進
八　関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覧

宇都宮・上三川　口川　和伸
宇都宮市立東小学校

校長同士のつながりを糧にしながら、子どもはもとより教職員等学校関係者がウェルビーイングを感じられるよう、先を見据えた学校づくりを展開してまいります。

上都賀　清水　仁美
日光市立落合東小学校

鹿沼市・日光市の四十四名の会員が、相互の連携互助と研修による学校経営の充実を目的として、主体的・協働的に課題解決に取り組む校長会を目指します。

芳賀　根本　美紀
益子町立田野小学校

本会の目標の下、会員の連携を大切にし、機を捉えた主体的な研修や情報交換を行うことで、課題解決に尽力できる校長会を目指してまいります。

下都賀　岸本　和子
壬生町立壬生北小学校

野木町と壬生町の十三名が会員です。次代を担う子どもたちのため、各学校経営の一層の充実や諸問題の解決に向けて、積極的に連携・協力していきます。

下野　坂本　美保
下野市立細谷小学校

「当たり前のことを当たり前に」下野市学校教育スローガンを礎とし、創意ある学校経営を推進するため、互いを尊重し、連携・協力する校長会を目指します。

小山　金子　弘隆
小山市立旭小学校

「人権尊重・生命尊重」を土台に据えた教育活動を展開しています。課題や悩みを共有し、同僚性を発揮することで課題解決に取り組む校長会を目指します。

栃木　関口　俊之
栃木市立大平中央小学校

二十九名の経験と知恵を結集させて、栃木の子どもを健やかに育てるために、関係機関と連携・協力を図り、試行錯誤しながら、よりよい校長会を目指します。

塩谷南那須　齋藤　孝浩
矢板市立矢板小学校

二つの地区が統合して三年目、三市三町計二十九名の校長が連携を深めながら情報共有に努めます。「児童が健やかに成長できる学校づくり」を目指します。

那須　郡司　一弘
大田原市立大田原小学校

会員同士の連携及び協働の一層の充実を図るとともに、本地区の学校教育の更なる発展を目指して、校長会の運営に努めてまいります。

佐野　秋山　広美
佐野市立界小学校

令和二十九年度、全小中学校の義務教育学校再編を見据え、学力向上・体力向上・働き方改革の三本の矢を放ってまいります。

チーム佐野で邁進します。

足利　神林　孝文
足利市立山前小学校

「足利市の教育目標」具現に向け、市内二十二校の連携・協力を深め、校長会の運営に取り組みます。また、「校長自身の資質向上と学校経営の充実」に努めます。

令和六年度 役員一覧

会　長　堀場幸伸（宇・中央）
副会長　口川和伸（宇・東）
　　郡司一弘（那須・大田原）
書　記　秋山広美（佐・堺）
　　坂本美保（下野・細谷）
　　引地健二（宇・泉が丘）
　　室田和宏（宇・宝木）
　　関口俊之（栃・大平中央）
会　計　口川浩子（宇・横川西）
　　宮澤文洋（宇・簗瀬）
　　清水仁美（上・落合東）
会計監査　増渕直嗣（塩南那・東）
　　青木浩美（小・小山城東）
　　小倉裕美（下都・藤井）

専門部 活動方針

総務部

部長　黒田　昌宏
宇・峰小学校

一　**主題**
栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二　**活動目標・内容**
・本会の事業推進及び連絡調整
・教育懇談会等による対策活動
・各部会に属さない必要事項の処理
㈠県小学校長会定期総会の準備・受付等
㈡県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討
㈢提案書作成と提出
小中校長会で作成
（今年度は、小学校が取りまとめ）
㈣県教育委員会との教育懇談会出席
㈤提案事項に対する回答の整理と報告
㈥全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会に参加（本県の実情等の発表及び他県の情報収集）

研修部

部長　廻谷　敦士
宇・西小学校

一　**主題**
自ら未来を創造し　ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営の推進

二　**活動目標・内容**
全連小大会主題と県小学校長会の基本目標に基づき、活動を推進する。
㈠各地区の研究主題に基づく全員参加による研修の充実と推進
㈡各種研究大会及び研修会の推進と協力
・第七十六回全連小徳島大会への参加（研究発表）
・栃木県小学校長会中央研究大会での研修の推進
㈢研修記録「第六十四号」の編集・発行

調査部

部長　加藤　隆男
宇・富士見小学校

一　**主題**
各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての調査及び学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二　**活動目標・内容**
各学校が取り組んでいる教育活動について調査し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。
㈠ＧＩＧＡスクール構想について（三年次）
㈡小学校における不登校対策について（一年次）
※七月上旬に、作成したアンケート調査を各学校へ配信し、実施いたしますので、ご協力ください。また、調査結果は、小学校長研修記録「第六十四号」に掲載いたしますので、ご活用ください。

厚生部

部長　庄司　和弘
宇・陽東小学校

一　**主題**
福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二　**活動目標・内容**
会員の福利厚生に関する各種事業を推進する。
㈠学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実
㈡教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望
㈢栃木県小中学校長会慶弔規程に基づく、会員の慶弔に関する事業及び会計業務
※令和六年度は、小学校長会の慶弔会会計が県小中学校長会の慶弔会計を担当します。
今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長　藍原　高秀
宇・戸祭小学校

一　**主題**
栃木県小学校長会の活動目標の具現化に関わる広報活動の推進

二　**活動目標・内容**
校長会の活動目標に関することや、学校が直面する経営上の諸問題についての情報を会報及びホームページで提供する。
㈠「校長会報」の年二回発行（七月・二月）
・豊かな心を育てる学校経営
・特色ある学校づくり
・県校長会研修の取組
・県教育委員会からの情報
・全連小の動向・情報
・心に響く様々な話題
㈡全連小広報活動への協力（機関紙「小学校時報」など）
㈢県小学校長会のホームページの運営・管理

主張

ウェルビーイングの向上

栃木県小学校長会副会長　口川　和伸

「ウェルビーイング」という言葉の意味自体が「良い状態、幸せ、健康等」と大きく漠然としており、教育というより福祉の言葉という感はあるが、教育の目標、地図のようなものであり、コロナ禍で学校の役割や機能として教育的機能に加え子どもの安心できる居場所としての福祉的機能が見直された点から考えると妥当な目標といえる。また、当然振り返りの観点として、多様に捉えることが肝要であり、主観・客観指標の併用や現時点だけでなく時間軸を広めにする観点が大切だと思う。

昨年度の全国学力・学習状況調査の児童及び生徒質問紙において「普段の生活の中で幸せな気持ちになることが（どちらかといえば）ある」と、ウェルビーイングにつながる質問があった。結果は、全国値小学校九〇・九％、中学校八六・八％だった。もちろん基準は一人一人ばらばらなので一概に肯定はできないが、小中児童生徒は結構幸せ感を感じている結果である。また我が栃木県の結果は、小学校が九二・五％、中学校が八八・〇％と更に良好な結果である。曖昧さはあるものの客観的数値、指標は高いと言えよう。

では、主観的観点はどうか。これには、特別活動等での困難やつらさを粘り強く乗り越えていくことで得られる良い状態、幸せ感が大切だと思う。

ウェルビーイングの考え方としては、今だけでなく中・長期で捉えていくことも大事だと思う。今は苦しくても将来の目標達成のために練習を頑張る、といった先を見通した広めの考えであり、これが我が国の教育の特質であるので、簡単に手放さないほうがよいが、現在、アフターコロナで、特別活動や地域行事等は復活しながらも削減・縮小傾向の対象となっている。教職員の働き方改革の課題もあり、今後、どうやって持続可能なものにするか、ウェルビーイングの更なる向上の点でも創意工夫が求められている。校長会で話し合い、この難題を考えていきたい。

主張

少しでも、働きやすい職場環境に

栃木県小学校長会副会長　郡司　一弘

学習指導要領には、どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない価値のあるもの（不易）と、時代の変化とともに変えていく必要があるもの（流行）が盛り込まれています。

教育における不易とは、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の「知・徳・体」の力をバランスよく身に付けさせること、教育における流行とは、変化の激しい社会においても子どもたち自身の力で未来を切り拓いていくための資質・能力の育成を図ることであると考えます。教育の不易は、「生きる力」の三要素でもあり、変化の激しい社会においても、子どもたち自身の力で未来を切り拓いていくための資質・能力の育成を図るための（流行）根幹であるとも言えます。各学校が、学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、適切な教育課程を編成・実施するためには、学習指導要領等に基づき、どのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくかというカリキュラム・マネジメントの確立が重要になると考えます。特に、教育課程全体を通じて、教科等横断的な視点から教育活動の改善を行っていくことや、学校全体の取組を通じて、教科等や学年を越えた組織運営の改善を行っていくこと、教育活動や組織運営などの学校の全体的な在り方をどのように改善していくか等、様々な課題が山積する中でも、学校の実態に応じて、特色ある教育活動を展開しているところかと思います。微力ではありますが、各学校の課題が少しでも軽減し、働きやすい職場環境で教育に取り組むことができるよう、各地区の校長会の取組状況に関する実践等を学ばせていただきながら、各学校が特色ある学校教育を推進していけるよう努力してまいりたいと思っております。

自ら未来を創造し　ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営

三十七年の伝統　全校合奏が育む豊かな心

壬生町立羽生田小学校　増山　真起子

（はじめに）

本校は、西に黒川が流れ緑豊かな自然に囲まれた農村地区にあり、小高い城址に建っています。児童は大変明るく素直であり、温かい雰囲気の学校です。令和元年度より小規模特認校制度を導入し、今年度、制度を活用して本校へ転入学した児童が全校児童三十九名中十七名になり、約四割が学区外からの通学になりました。本校のＰＴＡ活動は他校にはないものがたくさんありますが、学区外の保護者も学区内の保護者も学校には大変協力的です。

（本校の特色ある活動）

本校の特色ある活動として全校合奏があります。全職員と全校児童が一丸となって取り組んでいる活動です。毎年、下都賀郡音楽発表会に参加し、栃木県学校音楽祭に推薦されることを目標にがんばっています。子どもたちが真剣なまなざしで真摯に演奏する姿は聴いている人にたくさんの感動を与えます。中には涙を流す人さえいます。そんな全校合奏は昭和六十三年から始まり今年で三十七年目になります。当初百二十名近くいた児童が徐々に減少し、近年では三十名を切った年もありましたが、途切れることなく続いています。

前述したように本校のＰＴＡ活動は独特であり、音楽祭における楽器の運搬、搬入、搬出、楽器の設置等全校合奏にはＰＴＡの協力が欠かせません。毎年、ほぼ百パーセントの保護者が音楽祭への協力をしてくださいます。ＰＴＡの協力なくしては三十七年間続けることはできなかったと思います。

（終わりに）

「協力する力」「自主的に動く力」「自分なりに考える力」「友だちを思いやる心」「感動する心」「一体感」「達成感」など様々な力を身につけることができる「全校合奏」を本校の特色ある活動として継続し、今後も地域の方々や保護者の皆様の温かい御支援をいただきながら、学校経営に励んでいきたいと思います。

下都賀郡音楽発表会の様子

教育目標の具現化を目指して

那須塩原市立豊浦小学校　大塚　秀文

一　はじめに

本校は、昭和四十七年四月一日に黒磯市立黒磯小学校から分離し、黒磯市立豊浦小学校として発足しました。その後、平成十七年一月一日黒磯市、西那須野町、塩原町の三市町合併により那須塩原市立豊浦小学校と改称し、創立五十二年目を迎えます。

本校は、那須塩原市東部の黒磯地区、ＪＲ黒磯駅南西部に位置しており、学区内は住宅地と農地が入り交じったとてものどかな地域です。本校在籍の三百十三名の児童は、地域の方々に見守られながら、素直で元気いっぱいに育っています。

二　教育目標の具現化を目指して

本校の教育目標は「よく考え学び合う子」「豊かな心で助け合う子」「じょうぶでがんばる子」です。本年度は、教育目標をより具体的に「よく考え　笑顔いっぱいで　じょうぶな子」としました。そして、この具体的目標を実現するために、児童にどんな資質・能力をつけさせるべきか、そのための具体策にはどのようなものがあるかを常に意識して日々の授業や学校行事などの教育活動を行っています。

また、我々教職員も「よく考え笑顔いっぱいで　じょうぶな教師」を合い言葉に、同僚性を高め、日々の職務に励んでいます。

さらに、本校にはオリジナルキャラクターの「とようラッコ」というマスコットがおり、本校の児童は「とようらっ子」と呼ばれています。「とようラッコ」は様々な場面に登場し、「とようらっ子」に勇気と希望を与え、児童のがんばりを応援してくれます。

三　おわりに

本校の保護者や地域の方々は非常に協力的で、常に学校を応援してくれます。

児童、保護者、地域住民、教職員、そして「とようラッコ」が、「とようらっこ子」のウェルビーイングのために今後も協力していきます。

入学式に登場した「とようラッコ」

特色ある学校づくり

心豊かでたくましい児童の育成を目指して

宇都宮市立泉が丘小学校　引地　健二

今年で創立六十三年を迎える本校は、児童数七百六十三名の大規模校です。泉が丘中学校が隣接し、敷地内には総合型地域スポーツクラブやコミュニティセンターが併設され、また、近くには商業施設や公的施設、そして、うつのみや百景の一つ「越戸せせらぎ通り」があるなど、非常に恵まれた教育環境となっています。

越戸せせらぎ通りは、越戸川に沿って作られた遊歩道で、市街地の中でも豊かな自然を感じられるところです。本校では、この環境を生かし、総合的な学習の時間で観察や調べ学習を行っています。清掃活動も全学年実施しており、特に六年生は、中学生や地域の方々と共に清掃を行い、共同作業を通して、地域に愛着を感じるとともに、自他の役割や責任、働くことや社会奉仕についても学ぶよい機会となっています。さらに、中学生と語り合いながら活動を進めることで、進学に向けての不安解消にも役立っています。

また、令和七年度の外国語の授業の県大会開催に向け、「相手意識をもち　主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して～」を研究主題として、昨年度から組織的な取組を進めています。宇都宮市で推進しているミヤリイイングリッシュの実現に向け、児童の知的好奇心をくすぐり、思わずつぶやいたり、前のめりになったりする授業を展開できるよう研究を進めています。

さらに、今年度は、「見つけよう　自分の『いいね』　広げよう　みんなの『いいね』」という重点合言葉をつくり、児童一人一人の自己肯定感や自己有用感を育む教育活動にも力を入れています。

こうした活動を通して、心豊かでたくましい児童の育成に努めていきたいと考えています。

外国語の授業

越戸せせらぎ通り清掃活動

伝統を継承し、地域とともに進化する学校を目指して

栃木市立西方小学校　小倉　寛史

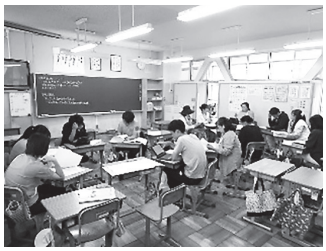
本校は、今年度で創立百五十一年目を迎え、地域とともに歩んできた伝統ある学校です。児童数が二百名弱、教職員は二十名を少し超える規模となります。若手の教職員が多く、勢いと長年受け継がれたことが融合している学校です。

本校の特色の一つ目は、保護者だけでなく、地域とも強い結び付きがあることです。昨年度は「よい歯の優良学校コンクール」において県知事賞をいただきました。平成二十六年、平成三十年に引き続き三度目の受賞となります。この栄誉は学校だけの功績ではなく、五十数年前、児童のむし歯を減らそうという町の歯科医の働きかけから始まり、現在まで継続している取組の成果と言えます。

また、栃木市の事業である「とちぎ未来アシストネット」を活用し、多くのボランティアの方々に学校の教育力を高めるための活動のお手伝いをしていただいています。コロナ禍によって活動制限の時期もありましたが、緩和以降は、地域コーディネーターの働き掛けもあり、新規内容を含め以前にも増して活発な活動になっています。教職員の負担軽減にも寄与し、児童に、より質の高い教育活動を提供することができています。

二つ目の特色は、全教職員で取り組んでいる、授業力を中心に据えた指導力の向上です。昨年度より栃木市教育委員会から学力向上推進校の指定を受け、二年間で国語科を中心に授業改善に取り組んでいます。また、学力向上推進リーダー事業とも関連を図り、十一月十五日の公開発表に向け、日々の授業を大切にしながら教育活動を推進しています。

これらの取組をとおして、児童を中心にした本校教育の更なる充実に努めたいと考えています。


学習指導案の検討会

Cosmos コスモス
栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長　山本　幸子

本会は、義務教育の充実発展と女性管理職の資質・能力の向上を目指して、今年度は公立小・中学校及び義務教育学校の女性管理職から成る二九二名（内校長一一二名）の会員で活動がスタート致しました。

コロナ感染症が拡大した令和二年度以降、教員の働き方改革という視点も踏まえて総会や研修会の在り方について工夫と改善に努めて参りました。特に、全会員を対象とした研修会については、対面式とオンラインを組み合わせたハイブリット形式で行い、時代に即した活動に変更してきました。

今年度の夏の研修会は、昨年度の研修会で好評を博した、大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生を再度お招きして、学校経営における校長としての在り方について学びを深める予定です。

年々複雑多様化する教育課題の解決とより良い教育の実現に向けて、会員相互が手を携えて、これからも力強く歩んでまいりたいと思います。

栃の葉
「とちぎの子どもたちの学力向上に向けて」

栃木県教育委員会

本県の子どもたち一人一人の学力向上のためには、先生方一人一人の指導力向上は欠かすことができません。例えば、「学習することが好き・よく分かる」など、子どもたちの学習意欲につながるよう、先生方には授業づくりの楽しさを見出しながら、日々の授業に取り組んでいただきたいと思います。

とちぎっ子学習状況調査問題には、学習指導の改善・充実に向けたメッセージが込められています。実際に問題を解いて、出題の趣旨や問い方を確認したり、評価問題として活用したりするなど、日々の授業改善にお役立てください。また、調査結果を学校全体で分析し、子どもたちの実態を把握するとともに、これまでの取組の成果や課題について共有していただきたいと思います。

学校全体の課題を解決するためには、どのように学習指導を工夫することが必要か、ぜひ、学年や教科の枠を越えて、こまめに話し合い、授業実践を積み重ねていただきたいと思います。

令和六年度
関ブロ理事会だより

栃木県小学校長会副会長　口川　和伸

第一回理事会は、東京都で開催された。

一　会長あいさつ

アフターコロナで、一年生を迎える会や児童総会など様々な学校行事が復活している。こうした活動は、児童の成長のためとても大切であるとともに、教師の指導力向上やつながりを強固にする上でも重要である。

二　協議

○令和五年度会務、会計報告
○令和五年度東京大会会計報告
○令和六年度役員選出
・会　長（新潟県　山田浩之）
・副会長（長野県　桂本和弘）
・幹　事（新潟県　蒔本高雄）
○令和六年度事業計画、予算案
○第七十六回関ブロ長野大会
・令和六年六月六～七日
・全連小研究大会と同時開催
○第七十七回関ブロ新潟大会
・令和七年六月十九～二十日
○第七十八回関ブロ山梨大会
・令和八年六月十一～十二日

三　情報交換

・各県の次回希望テーマ提示

「全国連合小学校長会 第七十六回総会・研修会から」

栃木県小学校長会長　堀場　幸伸

五月二十四日、全連小理事、代議員が東京都港区のニッショーホールに参集し、総会並びに研修会が開催された。

総会では、植村会長（東京都）からの挨拶、文部科学大臣をはじめとする来賓からの祝辞、退任役員への感謝状贈呈等があり、続いて、昨年度の事業・決算報告、本年度の活動方針、事業計画、予算案が審議され、全て承認された。

研修会では、文部科学省大臣官房審議官の森孝之氏から「当面する初等教育の諸問題」と題する講話に続き、関係各課より「教育課程の実施」「我が国の教育と社会」「令和の日本型学校教育」「教師を取り巻く環境整備」「いじめ・不登校への対応」「優れた教師人材の確保に向けた取組」「学校における安全管理」「幼保小接続期の質的向上」についての行政説明が行われた。

最後に、第七十六回全連小研究協議会徳島大会の概要説明があり、閉会となった。

話題の広場

国蝶「オオムラサキ」が舞う学校

市貝町立市貝小学校
荒井　利之

本校は、田畑に囲まれ、広い校庭を有し、創立以来、学校緑化活動を計画的に推進してきたことから、多くの樹木や果樹がある自然豊かな学校です。「あいさつ　あつまり　あとしまつ　笑顔きらきら市貝っ子」を合い言葉に、教育活動を行っています。

校庭の西にある学校林で、国蝶「オオムラサキ」の幼虫を発見し、総合的な学習の時間などを活用して環境学習を進めています。環境づくりに詳しい外部講師をお招きし、充実した環境づくりのための整備と授業を子どもたちの環境学習として継続しています。昨年度は、エノキの根本の落ち葉か二十五匹のオオムラサキやゴマダラチョウの幼虫を見つけることができ、子どもたちは「感動」、現在も観察中です。

校庭に国蝶「オオムラサキ」がたくさん舞うことを子どもたちと共に楽しみにしています。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長
小林　茂

今年度より新たに県小学校長会の会員になられた校長先生方、ご昇格おめでとうございます。

運営拠出金委員会は、校長会の主体的な活動の充実と強化を図ることにより、校長がその地位を確立し、職務を遂行するために行う諸活動の財源（運営拠出金）の保管・管理をする目的で設けられています。運営拠出金は、本会に入会される際に、皆様からお預かりしています。

さて、昨年度は全国連合小学校長会七十五周年記念行事が開催され、この記念事業関連費が主な支出となりました。今年度は、記念行事等に関連する支出は予定されておりませんが、次回の小学校長会関ブロ栃木大会の準備資金として積み立てることも目的の一つになっております。

会員の皆様におかれましては、本委員会の活動の趣旨をご理解の上、ご協力の程お願い申し上げます。

県小学校長会事務局だより

事務局長　小野　浩司

感染症の状況も落ち着き、少しずつ日常が戻ってきた感じがします。会員の校長先生方は、学校経営に集中できるようになってきたでしょうか。今年度も、引き続き校長会へのご支援どうぞよろしくお願いいたします。お陰様で県小学校長会の事業や運営方法もほぼ通常に戻り、理事研修会も、通常の形で理事の皆様に参集していただき、新役員の承認を行うことができました。定期総会では、全員が会場にお越しいただき、多数の来賓をお招きして開催することができました。

今年度は、関ブロ長野大会と全連小徳島大会が予定され本県からも多数の校長先生が参加されます。遠距離の大会でご苦労をお掛けしますが、有意義な大会になれば幸いです。

栃木県小学校長会事務局は、今年度も小野事務局長と高柳事務局主任です。勤務は九時～十六時です。

不在の場合は留守電設定にしておきますので用件をお話ください。

編集後記

教員の処遇改善について、ニュースでは教職調整額に関わる「給特法」の見直しが盛んに伝えられている。支給額が増えることは有り難いことだが、教員が抱える多くの問題がそれで解決されるというわけではない。教員の仕事はビルド＆ビルドで増え続け、教材研究の時間の確保さえ難しい状況である。

それでも、子どもたちを前に、笑顔で仕事に取り組む先生方には、頭が下がる思いである。これからも、子どもたちのために、先生方のために校長として力を尽くしたい。

本号発行に際し、玉稿をお寄せいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

足利市立筑波小学校
服部　英樹